

### 1 刑法犯認知・検挙状況

	H25.1~12	H24.1~12	増減数	増減率(%)
認知件数	1,320,748	1,382,121	-61,373	-4.4
検挙件数	394,169	437,612	-43,443	-9.9
検挙人員	262,554	287,021	-24,467	-8.5
うち少年の検挙人員	56,493	65,448	-8,955	-13.7
検挙率(%)	29.8	31.7	-1.9ポイント	

### 2 主な特徴点（前年比）

#### (1) 認知状況

- 刑法犯認知件数は平成15年以降、11年連続して減少。
- 包括罪種別では、窃盗犯は54,138件(-5.2%)、粗暴犯は569件(-0.8%)、凶悪犯は192件(-2.8%)それぞれ減少。  
殺人は939件と、戦後初めて1,000件を下回り、窃盗犯は986,309件と、昭和48年以来40年ぶりに100万件を下回る。  
他方、風俗犯は144件(1.2%)、知能犯は3,093件(7.7%)それぞれ増加。  
知能犯のうち、詐欺が3,648件(10.5%)増加。
- 10年前(平成15年)と比較すると、刑法犯は52.7%、凶悪犯は50.4%、粗暴犯は15.4%、窃盗犯は55.9%、知能犯は42.2%、風俗犯は7.4%それぞれ減少。
- 重要犯罪の認知件数は215件(1.5%)増加。罪種別では、強制わいせつが410件(5.6%)、強姦が170件(13.7%)それぞれ増加、強盗が330件(-9.0%)減少。
- 重要窃盗犯の認知件数は9,268件(-6.1%)減少。侵入盗が7,684件(-6.7%)、ひったくりが2,168件(-21.5%)それぞれ減少する一方、自動車盗が523件(2.5%)増加。

#### (2) 検挙状況

- 刑法犯検挙件数、検挙人員共に平成17年以降、9年連続して減少。
- 包括罪種別では、全ての罪種で検挙件数、検挙人員が減少。  
窃盗犯は検挙件数で31,788件(-11.1%)、検挙人員で14,892人(-9.7%)それぞれ減少。
- 検挙率は29.8%で1.9ポイント低下。

### 3 今後の犯罪抑止対策

- 地域の犯罪情勢に即した犯罪抑止対策の推進
- 子供・女性・高齢者が被害者となる犯罪対策の推進
- 防犯ネットワークによる主体的な自主防犯活動の促進
- 初動捜査の高度化と的確な捜査指揮による検挙活動の推進
- 捜査の科学化の推進

## 1 警察認知

平成25年12月29日、群馬県邑楽郡大泉町<sup>おうら</sup>所在の冷凍食品製造工場の工場長らが群馬県大泉警察署に対し、「本年11月頃から、当社工場で製造された冷凍食品を購入した消費者から『異臭がする』等の苦情が相次ぎ、回収した冷凍食品を検査機関へ分析依頼した結果、農薬マラチオンの成分が検出された。」旨届け出たことにより警察が認知。

## 2 捜査状況

### (1) 捜査体制

刑事部長、生活安全部長を長とする合同捜査体制

### (2) 捜査内容

- ア 工場関係者からの事情聴取
- イ 工場の実況見分
- ウ 冷凍食品の鑑定 等

## 3 参考

### (1) 製造会社等の対応

- 12月29日、記者会見を行い、事案概要と当該工場<sup>ア</sup>で製造した全商品(640万パック～製造会社想定)を回収する旨を発表
- 12月30日、製造会社内に「事故調査委員会」を設置

### (2) 群馬県の立入調査

12月30日、群馬県館林保健福祉事務所が当該工場に立入調査を実施

### (3) 「マラチオン」の概要

有機リン系の殺虫剤で、穀類、野菜、果実等に使用されている。

マラチオン(別名マラソン)による中毒症状としては、吐き気・嘔吐、下痢、腹痛、唾液分泌過多、発汗過多、軽い縮瞳などがある。

## 1 趣旨

交通安全意識の浸透と高揚を図るため、広く国民各層、各分野の関係者が参加する大会を開催して、交通安全に関する基調講演、意見発表等を行うほか、交通安全のために顕著な功績のあった者等への表彰、大会宣言等を行い、一層強力な交通安全国民運動を展開しようとするもの。

## 2 主催

警察庁、一般財団法人全日本交通安全協会

## 3 大会の概要

## (1) 1日目（分科集会、約400人）

## ア 日時

1月16日（木）午後1時～午後4時20分

## イ 場所

ホテルグランドヒル市ヶ谷

## ウ 内容

地域・家庭部会、交通安全教育部会、企業部会の3部会を開催し、部会ごとに基調講演、意見発表を行うほか、大会宣言を検討、作成する。

## (2) 2日目（本会議、約2,000人）

## ア 日時

1月17日（金）午後2時～午後2時38分

## イ 場所

日比谷公会堂

## ウ 内容

秋篠宮同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、交通安全のために顕著な功績のあった者等に対する交通栄誉章（緑十字金章・銀章）の表彰、交通安全年間スローガン最優秀入選者に対する内閣総理大臣表彰、大会宣言等を行う。

## ※ 主要来賓（予定）

内閣総理大臣	安	倍	晋	三
参議院議長	山	崎	正	昭
国家公安委員会委員長	古	屋	圭	司

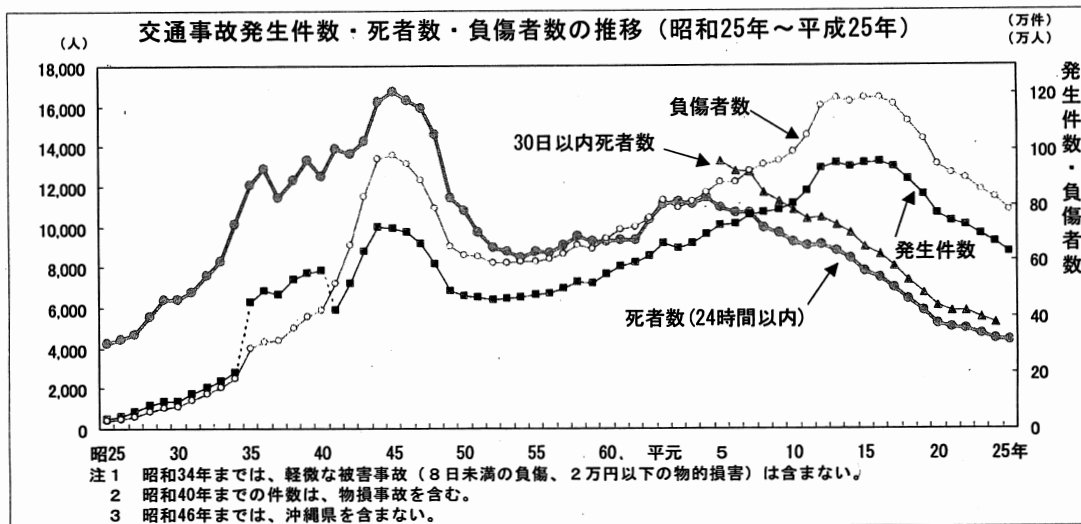
1 平成25年中の交通事故発生状況

1 頁

死者数 4,373人(前年比 -38人、-0.9%)  
 うち高齢者(概数) 2,303人(同 +39人、+1.7%)  
 発生件数(概数) 62万8,248件(同 -3万6,659件、-5.5%)  
 負傷者数(概数) 77万9,660人(同 -4万4,879人、-5.4%)

注 概数とは、交通事故日報集計システムにより集計された速報値であり、今後、修正もあり得る。

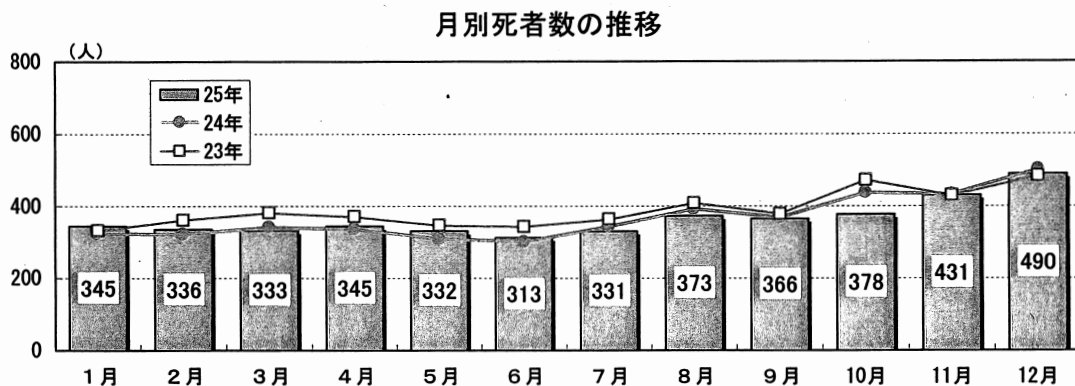
平成25年中の交通事故死者数は、4,373人で13年連続の減少となるも、高齢者死者数が平成13年以来12年ぶりに増加した。発生件数及び負傷者数は、9年連続で減少した。



2 月別死者数の推移

2 頁

死者数を月別に前年と比較すると、10月が大きく減少した。1日当たりの死者数は、12月が最多(15.8人)、6月が最少(10.4人)となった(年平均12.0人)。



月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	上半期計	7月	8月	9月	10月	11月	12月	下半期計	年間合計
1日当たり死者数	11.1	12.0	10.7	11.5	10.7	10.4	11.1	10.7	12.0	12.2	12.2	14.4	15.8	12.9	12.0